

ふくしまの復興・再生を共に担う子どもたちのために

# 「つなぐ教育」で 確かな学力を

～家族・教職員・社会人が一体となって～



ふくしまから

## 学力向上のための「つなぐ教育」推進事業

はじめよう。

平成26年度、県内14推進地域の小・中学校50校がそれぞれ各中学校区内で連携し、子どもたちの夢の実現や本県の未来を担う人材の育成に向けてつなぐ取組を推進してきました。本年度も、県内14推進地域で以下のような取組を推進していきます。

### 学校同士の連携を強化するために

- 地域の課題に沿った「学びのプラン」の作成
- 地域の実態に応じた児童生徒向けの「学びの手引き」の作成
- TV会議システム（※）を活用した交流授業の実施
- 連携地域の児童と生徒が参加する学習会等の開催

### 学校と家庭の連携を強化するために

- 学習習慣、生活習慣の確立に向けた地域全体での取組
- 各校PTA代表が合同で行う学力向上のための学習習慣、生活習慣の確立に向けた家庭の役割についての協議

### 学校と地域の連携を強化するために

- 地域の有識者や民間業者代表等からの連携地域講演会の開催



テレビ会議システムの活用

※ TV会議システムとは、インターネット接続回線を利用して会話することを可能にした対話型の通信システムのことです。



### 学ぶたいせつさをつなぐ

福島大学副学長(地域連携担当) 小沢喜仁 おざわよしひと  
 「子どもたち、自らが学び、経験を積み重ねて、課題解決する力を養うこと」、これこそがふくしまの豊かな自然とその恵み、これを楽しむながら育まれた文化と産業、そして地域のコミュニティを持続的に発展させるための方策であると考えています。子どもたちは、3年後、6年後、12年後、そして30年後の未来において活躍する貴重な人材です。私たちは子どもたちの未来に対して、今何を成すことができるでしょうか？  
 子どもたちは、家庭での生活をもとに、学校で友だちとともに勉強に励み、地域社会でのいろいろな経験を重ねて、社会を担う存在として育っています。私たちは、子どもたちの学びを見守り支え、ともに学び、つなぎ・つながるのが求められています。これを社会全体で共有すること、人々の協働が何よりも重要であることから、福島県ではこれを「つなぐ教育」として表明しています。私たちは、子どもたちにきちんと今を伝え、つなごうと努めます。

夢の実現

大学・社会人  
高等学校

確かな学力

先人たちが築き上げてきた知識や技能を！  
様々な課題を解決していく知恵を！  
学びの原動力となる意欲や態度を！

## つなぐ教育で、 確かな学力を！



### 社会人（職業人・地域の方）

社会の人たちがつながって……

子どもたちに働く意義や喜び、郷土のよさを伝えていきましょう！

子どもと社会をつなぐ

働くことと子どもの夢をつなぐ

- ・ 子どもたちに自分の夢を語りましょう。
- ・ 子どもたちに仕事の話をしましょう。
- ・ 子どもたちに働いている姿を見せましょう。
- ・ 子どもたちに仕事をさせてみましょう。
- ・ 子どもたちに郷土のよさを語りましょう。

子どもと郷土をつなぐ

子どもと生き方をつなぐ

### 家族（保護者・祖父母等）

家族がつながって…… 子どもが世界で一番安らぐ場を与えましょう！

子どもを社会につなぐ

自信を自律心につなぐ

★子どもたちに育みたい思い★

- ・ 互いにあいさつをしましょう。
- ・ 子どもの話を聞きましょう。
- ・ 子どものがんばりを認め、励ましましょう。
- ・ 子どもに家事をさせましょう。
- ・ 子どもの「なぜ？」に付き合ひましょう。
- ・ 子どもが自分の計画を立てるのを励み支えよう。

知的好奇心を学ぶにつなぐ

- ・ 私も～のようにになりたい。【あこがれ】
- ・ あきらめない、くじけない。【やり抜く意思】
- ・ 何事にもチャレンジするぞ。【挑戦する心】
- ・ なぜ？ どうして？ もっと知りたい。【知的好奇心】
- ・ みんなで一緒に考えたい。【共に考える喜び】
- ・ こうするともっとよくなるぞ。【独創性】

子どもと教師、教師と教師がつながって……

中学校  
小学校

### 教職員（学校関係者）

子どもの「夢」や「希望」の実現を支えましょう！

子どもと教材をつなぐ

子どもと子どもをつなぐ

- ・ 共に生活する楽しさ、学び合う楽しさを感じさせましょう。
- ・ 子どもの言葉、しぐさ、表情をよく見取って、内面をとらえましょう。
- ・ 子ども自らが考えたいこと、学びたいことを見いだすようにしましょう。
- ・ 子どもの学びの履歴を熟知し、子どもの成長を信じましょう。
- ・ 切磋琢磨しながら仲間がよい、笑顔あふれる教師集団を創りましょう。
- ・ 近隣の学校や他の機関と共に行う教育活動を展開しましょう。

学校と学校をつなぐ

学びと学びをつなぐ



### お知らせ

各種事業の開催日決定！～集え！無限の可能性を秘めた子どもたち～

各種事業の開催日は次の通りです。

- 算数講座 8月7日（福島大学附属小学校） 8月11日（会津大学） 8月18日（いわき明星大学）
- 理科講座 8月4日（会津学鳳中学校・高等学校） 8月7日（磐城高等学校） 8月11日（WIZ専門学校国際情報工科大学校）
- 算数・数学ジュニアオリンピック 10月25日（郡山女子大学他、県内7会場）
- 科学の甲子園ジュニア福島県大会 8月19日（福島大学）

※ 詳細は各学校を通じてお知らせします。

福島県教育庁義務教育課



合同表彰式

（平成27年1月6日 福島県文化センター）

# ふくしまからはじめよう。学力向上のための「つなぐ教育」推進事業 平成26年度各推進地域の取組

## 喜多方市

### つなぎ続ける教育

喜多方市立山都中学校 校長 澤崎 俊哉

事業初年度で最も大切なことは、「つなぐべき価値あるものは何なのか」、「どのようにつないでいくのか」というビジョンの明確化と関係者のコンセンサスであると考えます。

また、「つなぐ教育」のモデルとなる先進地域秋田県（湯沢市・大仙市）の研修視察から「つなぎ続けて」はじめて得られる力があることを強く感じました。そこで山都地域連携推進委員会では、以下のとおり今後何年かに渡って必ず実践すべき「つなぐ基盤」の分析と精査に力を注ぎました。

- ①山都町保・小・中連携プラン（12年間を見通した育成プラン）改訂
  - ②山都町小・中PTA連合設立
  - ③家庭学習の手引き（児童生徒用）
  - ④家庭学習推進の手引き（保護者用）
  - ⑤学習のルール10か条（学習規律）
  - ⑥話し合いの仕方（聴き方・話し方）
  - ⑦小・中授業研究会
  - ⑧学校評価アンケート分析 等。
- 今後とも「連合強化(連携から連合へ)」と「一事徹底(つなぎ続ける)」を旨とし実践し続けたいと思います。

## 二本松市

### みんなで子どもを育てる「つなぐ教育」

二本松市立岩代中学校 教諭 齋藤 直

この「つなぐ教育」は、従来の小中連携事業の中から「学び」に焦点をあて、義務教育9年間のスパンで、中学校区の小中学校、家庭、地域が一体となって取り組むことができるのだと強く感じました。

これまでは、小中が連携した学力向上策として、学級編制の打合せや学力テストの結果分析、授業形態の工夫、定着のための共通教材の活用等を行ってきました。今回は、そこに教師の指導力向上や指導法の工夫等による、よりよい授業づくりと学校・家庭でのよりよい生活習慣の確立をめざし、家庭と地域に働きかけ、一緒に子どもたちを育てる流れをつくってきました。

次年度は、地域性にも配慮し、「学びのプラン」と「学びの手引き」を活用し、今年度の実践を生かした実効性のある取組を行いたいと考えています。

## 天栄村

### みんなで気づく さわやか てんえい

天栄村立広戸小学校 PTA会長 後藤 徹

私の家には「てんえい親子でつなぐ7つの愛言葉」が貼ってあります。これは、村教育委員会が村内の小中学校の各家庭にアンケートを実施し、家庭で大切にしていることを集約し、村全体で大切にしたい合言葉を決めたものです。私の家でも、常に意識しているところです。また、「てんえいまなびのてびき」も手元に置き、時々、子どもと一緒に確認しています。これも、各学校の「家庭学習の手引き」をもとにして、村教育委員会が中心となって作成したと伺っております。このてびきが学校から配付された際には、校長先生より、てびきをもとにして、学校と家庭が連携して、どのような取組をしていくのかについての丁寧な説明もあり、大変ありがたく感じております。

天栄村の先生方の中には「村はひとつ 学校はひとつ 願いはひとつ みんなで気づく さわやか てんえい」という合言葉があるそうです。そこに、「保護者もひとつ」というフレーズを加えていただけると、保護者もがんばらねば…と思っている次第です。

## 会津美里町

### 生活習慣の確立に向けた連携

会津美里町立高田中学校 PTA会長 白井 武

会津美里町では、以前から「みさとの教え」の徹底、「望ましい生活習慣・学習習慣の確立」で学校と家庭をつないできました。今年度は、学力向上のための「つなぐ教育」の指定を受け取組が充実しました。その一端を紹介します。

- 1 「みさと運動」の実践  
本町では、「あいさつ」「返事」「はきものそろえ」の三つを、子どもに身に付けさせたい大切な所作として、全世帯にリーフレットを配付したり、保幼小中合同会議等で共通理解を図ったりして、保幼小中学校、家庭、さらに地域が連携してその習慣化に向けて取り組んでいます。
  - 2 「メディアコントロール力の高まり」に向けて  
一昨年度より、月の第一週を「メディアコントロール週」と位置付け、家族みんなでメディアに触れる時間を制限しています。特に幼児、小学校低学年の児童、その保護者に意識の高まりが顕著に見られ、今後よい影響が広まることを期待しています。
- もちろん、これらの取組に各学校のPTAや町連合PTAが深く関わっており、機会あるごとに啓蒙に努めています。

## 小野町

### 「つなぐ教育」推進事業から得たこと

小野町立小野中学校 教諭 新妻 美紀

今年度、「学力向上のための『つなぐ教育』推進事業」を通して、授業での小中高連携、テレビ会議システムでの各校授業研究会の映像配信、家庭学習の手引きの改訂、生活及び学習に関する教育講演会、小中合同ボランティア活動など様々な取組を実施することができました。特に、算数・数学科においては、小中高連携の中で、小中学校・高等学校の相互参観を実施し、義務教育9年間と高等学校までの授業のつながりを再確認することができました。また、小学校での研究授業では、中学校へのつながりを意識した指導案作成にも参加することができ、中学校の授業にも活かすことができました。生徒の学習意欲も高まり、生徒同士でより積極的に学び合いができるようになりました。学校と家庭・地域のつながりの大切さを再確認することができたので、今後もこの取組を継続し、「小野町の子どもたちを育てる」という視点で教育活動を推進していきたいと思っています。

## 矢吹町

### 学校と地域でつくる「学びの未来」

矢吹町教育委員会 教育長 栗林 正樹

子どもたちが健やかな成長を遂げ、主体的に生きていくためには生活習慣を見直し、よりよい日々の暮らしを続けていくことが肝要です。そこで、教育委員会は、矢吹の教育を考える会(幼保小中学校連合PTA等)、校長会と連携を図り、幼保小中学校の子どもたちの保護者にアンケートをお願いし、子どもたちの実態調査を行いました。その結果をもとに「子どもの学びの習慣化のために『4つの提言』」を次のようにまとめました。

- ①家庭学習の習慣化
  - ②適切な食事や睡眠の確保
  - ③テレビやゲーム、携帯電話、パソコン等はルールを決めて(ノーマディアデーの実施)
  - ④読書を楽しむ習慣化
- この4つの提言をいつでも意識できるよう、リーフレットを作成して子どもたちに指導するとともに、各家庭に配布して理解を得よう保護者にも学校等から説明しています。なお、町広報紙にも掲載して町全体にもお知らせしています。

## 二本松市

### 『つなぐ教育』で再認識したこと

二本松市立小浜中学校 PTA会長 大内 英克

私たちの小浜地域には、笑顔であいさつ、進んで行く環境整備活動など、当たり前のことを当たり前でできる子どもたちが光輝いています。

子どもたちは、職場体験などを通して、地元の商工業主から仕事をやる意義や働くことの尊さを学ぶと同時に、地域の伝統行事にも進んで参加し、地域のつながりと教養を学んでいます。これらの学びは、生きる力を育む貴重な経験だと感じています。

私たち保護者も、NGO団体と連携したサマースクールの実施など、子どもたちの学力の向上と将来への夢を育むための活動を行っています。活動を通して、保護者をはじめ地域全体で子どもたちを未来へつなぐ教育の大切さを再認識しました。

私たちは、これからも学校や地域と連携して子どもたちを育てていきます。子どもたちにはこの地で育ったことに誇りをもって生きてほしいと心から願っています。

## 桑折町

### 「つなぐ教育」へのPTAとしての関わり

桑折町PTA連絡協議会 会長(醸芳中学校PTA会長) 藤倉 伸祥

- ① PTA活動のネットワークを生かした協力体制の構築
  - 町PTA連絡協議会・各園学校PTA集会で、学校と家庭が連携した取組について、学校からだけでなく、PTA役員からも呼びかけました。本年度は、「家読(うちどく)運動」や「小中学生の自転車用ヘルメット着用の推進」を新たな取組として保護者に協力を求めました。
- ② PTAの活動で取り上げた、園・学校に関連する内容
  - 「桑折町の15歳のめざす姿」・「家庭生活習慣のポイント」と関連させて、「学校―家庭―地域の教育と学力向上」と題した講演会を実施しました。
  - 「家庭生活習慣のポイント」については、幼稚園年少から中学校3年生まで、年齢差はあるものの、共通する10項目について発達段階に応じた目標を定め、町の広報紙で取り上げてもらうなど、学校と家庭・地域で協力しながら目標の達成に取り組みました。

## 相馬市

### 向陽中学校区の成果を市の施策と関連づけて、市内全中学校区に広げる

相馬市教育委員会 教育長 堀川 利夫

これまで行ってきた学力向上の取組を「つなぐ」という視点で見直し、実践するとともに、向陽中学校区の6校において課題を共有し、その解決のために共通した取組を実践してきた。この取組は、同中学校区6校のPTA役員で組織する「相馬市向陽中学校区6校PTA連絡協議会」との連携を通してさらに充実させることができた。

今後は、向陽中学校区での成果を市内全中学校区に広げ、さらに充実した取組とするために、市指導員会において幼小連携、小中連携の実践研究を行うとともに、本市教育委員会の重点施策である学校提案型学力向上事業(各校の学力向上の取組に対して、100万円を上限に予算を配当)及び市単独講師配置事業(20名の講師を小・中学校に配置)と、「つなぐ教育」事業との連携強化を図っていきたい。さらに、相馬市小・中学校PTA連合会と協力し、全市を挙げて学習習慣及び生活習慣についての課題を解決していきたい。

## 広野町

### 学校・家庭・社会との連携を生かして

広野町立広野中学校 校長 高橋 知宏

- ティーム・ティーチングによる授業実践や学習支援者(加配教員)の活用等は、生徒へのきめ細かな指導・支援ができ、効果的である。
  - 小中連携を図ることで、義務教育9カ年を見通した一貫性のある指導を行うことができるようになる。
  - 「学びの手引き」を活用した家庭学習の習慣化や「自主学習ノート」を利用した自主学習の推進は、家庭との連携が特に重要である。
  - 地域や関係機関等との連携は、キャリア教育としての関わりが深く、生徒の夢・希望・生きる力を育むことにつながる。
- ※ 小中連携や家庭・地域・社会との様々な連携により、生徒の学習意欲の高揚、学力の向上、そして「生きる力」の育成を図ることができる。

## いわき市

### 「つなぐ教育」雑感

常磐共同ガス株式会社 代表取締役社長 猪狩 謙二

講演で、勉学に勤しみ正しい考え方をもち、心が変われば人生が変わる事実を伝えたかった。勉強することに損ではなく、しなければ将来損をする。子どもたちが潜在能力を磨いて知恵や判断力を養うために欠かせないものだ。

私たちの役割は、ふるさとを担う子どもたちを夢のある未来にいざなうこと。成長する過程で地域社会とつながり見識を広める事で、人生の方向づけの選択肢が増す。人生の先輩として、経験してきたことを伝えることで、多くを感じ未来に思いを馳せる。同時に夢は描くだけでなく追うこと、すなわち、頭で考えるのみならず前向きに行動する、そして、人としてのやさしさと思いやり、礼節をわきまえ徳を積むことの大切さも伝えたかった。

今回、「地域の発展があって企業が発展する」と、かたくなに信じる一人の経営者として、地域貢献の奥深さを認識させられた。講演中の子どもたちの純真な眼差しが今でも脳裏に浮かぶ。心と心がつながるひと時であった。

## 塙町

### 子どもたちの夢を叶える「つなぐ教育」に

塙町立塙中学校 PTA会長 佐藤 光一

塙町では「つなぐ教育」の取組の一つとして「はなわっ子のハケ条」、「夢と希望を叶えるためのはなわっ子プラン」を定め、子どもたちの望ましい学習習慣、生活習慣の確立をめざしました。

その実践の一つとして「学年×10分」の家庭学習を習慣化させる取組があります。小学1年生から中学3年生まで共通の「学年×10分」(中学1年生は7年生とする)の家庭学習時間を設定することで、無理なく段階的に習慣化を図りました。

また、毎週火曜日を「ノーマディアday」とし、町内の全小中学生がメディアの使い方を考える機会としました。子どもたちの学習時間が延びただけでなく、食事の時間にテレビを消すことで家族の会話が増えるなど、改めて家族団らんの機会をもつことができました。

この1年間の取組をこれからも続けることで、子どもたちが将来夢を叶える力を身に付けさせていきたいと思っています。

## いわき市

### 『みんなで育てる地域の子』の意義を実感できた「つなぐ教育」の実践

いわき市立湯本第一中学校 校長 永山 誠一

子どもたちの9年間の学びを見守るために、目指す子ども像に願いを込めて地区共通の「学びのプラン」を作成。全家庭に配布するとともに各事業所等46箇所に掲示しました。また、子ども向けに共通の「学びの手引き」を作成し、主体的な学習習慣を支えました。

小中学校教員が授業研究、授業交流に取り組み、教科ごとの指導方法について意見を交わし、学習訓練、家庭との連携・協力について共通実践に努めました。中学校教員による小学校での英語、理科等の交流授業では、授業者が子どもたちの実態を肌で感じることで中学校の授業改善につながりました。

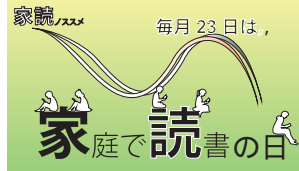
小中学校の子どもたちや保護者への講演会では、地域の有識者から、未来を担う子どもたちへ熱いメッセージが語られ、子どもたちから「今という時を大切にしたい」「地域を誇りに思いとにも学びたい」という感想が寄せられました。

# 桑折町「家読（うちどく）」運動

桑折町では、桑折町立醸芳中学校を拠点校とし、4幼稚園（醸芳、睦合、半田醸芳、伊達崎）と4小学校（醸芳、睦合、半田醸芳、伊達崎）の9幼稚園、小・中学校で、「つなぐ教育」に取り組んでいます。

下記のように、「家庭生活習慣のポイント」として10項目を挙げ、各幼稚園、小・中学校で発達段階に応じて実践しています。「読書・新聞」では、学校だけではなく、家庭での読書時間を確保するため、「家読（うちどく）」運動を実施しています。

桑折町の15歳のめざす姿～  
「高い志を持って、自分の将来を切り拓いていこうとする15歳」～の具現に向け、家庭と協力して活動しています。



## 家庭生活習慣のポイント 桑折町教育委員会・桑折町PTA連絡協議会

幼稚園	小学校低学年	小学校高学年	中学校
<b>生活リズム</b> 早起き、朝ご飯、同じ時刻に就寝・起床する	早起き、朝ご飯、同じ時刻に就寝・起床する	早起き、朝ご飯、同じ時刻に就寝・起床する	早起き、朝ご飯、同じ時刻に就寝・起床する
<b>継続時間</b> 10時間程度	9時間程度	8時間程度	7時間程度
<b>食事</b> はしを正しく持つ食べる	家族と一緒に食べる。特に朝ご飯をきちんと食べる。	家族と一緒に食べる。特に朝ご飯をきちんと食べる。	家族と一緒に食べる。特に朝ご飯をきちんと食べる。
<b>あいさつ</b> 相手を見て元気なあいさつをする	相手を見て自分からあいさつをする	相手を見て自分からあいさつをする	あいさつを含めた挨拶に合わせた礼儀身に付ける
<b>手洗い</b> 出来ることを行う	家庭の仕事や役割を責任を持って行う	家庭の仕事や役割を責任を持って行う	家庭の仕事や役割を責任を持って行う。地域の活動に参加する
<b>読書新聞</b> 読み聞かせる	自分で音読する	読書をする図書館を活用する	読書をする図書館を活用する
<b>テレビゲーム</b> ゲームを持たせない 持たせる時は時間を決める テレビも時間を決める	ゲームを持たせない 持たせる時は時間を決める テレビも時間を決める	テレビやゲームの時間を決める 子どもの部屋にテレビやコンピュータを置かない	テレビやゲームの時間を決める 子どもの部屋にテレビやコンピュータを置かない
<b>きまり</b> 家の人や生活との約束を守る	家、学校、社会のルールを守る	家、学校、社会のルールを守る	家、学校、社会のルールを守る
<b>携帯電話</b> 持たせない どうしても必要なときはルールを決める	持たせない どうしても必要なときはルールを決める	持たせない どうしても必要なときはルールを決める	持たせない どうしても必要なときはルールを決める
<b>学習</b> 家でできごとを話す	積極 学習×10分＋α	積極・自主学習 学習・授業・課題のサイクル化 学習×10分＋α	積極・自主学習 学習・授業・課題のサイクル化 学習×10分＋α

# 矢吹町こども読書100選！

矢吹町教育委員会では、「子どもが読書に親しむ町・矢吹」を目指しています。矢吹町の全ての子どもがいつでも、どこでも自主的に読書に親しむことができるような環境を整備し、読書を通して子どもの豊かな心と生きる力を育むことができるよう読書活動の推進に努めてきました。

幼保小中学校の子ども、保護者より「読みたい本」「読ませたい本」アンケートを実施し、町読書推進委員会で発達段階に応じた図書選択をし、100冊の選ばれた本のパンフレットを作成しました。園で、学校で、家庭でこのパンフレットの図書をきっかけに読書活動が推進されることを願っています。



# 授業づくり理科5つのポイント(天栄村)

天栄村「つなぐ教育」推進事業 平成26年度

## 授業づくり 理科 5つのポイント

【問題解決の過程】

- 自然現象への働きかけ
- 問題の把握・設定
- 予想・仮説の設定
- 検証計画の立案
- 観察・実験
- 結果の整理
- 考察
- 結論の導出

【ポイント1】 問題文は、疑問形で書く。  
本問に解決する問題を疑問文の形で示しましょう。文末が「～しよう」という文は、問題文にはなりません。「粘土は、形を変えろ。重さは変わるかな」というように疑問文にすることにより、「変わると思うよ。だって～」というように、スムーズに問題解決に向かっていきます。

【ポイント2】 多くの事実を得るような質問を高める。  
1つの事実（結果）からのみ考察すると、客観性に欠けます。簡単な実験なら何度もやってみること。他の班の結果を見に行くこと。そうやって、できるだけ多くの事実から、考察するという意識をもちましょう。

【ポイント3】 多くの事実（結果）から考察する。  
できるだけ多くの事実（結果）を黒板等に示し、そこからどのようなことが言えるのかを考えさせましょう。教師にとって都合のよい事実だけからの考察では、子供の思考力をよりよく育むことはできません。（分析）（改善）

【ポイント4】 問題文に対応した結論を書く。  
結論は、問題文に対応して書きましょう。「粘土は形を変えろ、重さは変わるかな」に対して、「粘土は形を変えても、重さは変わらない」となります。子供が、問題文に立ち寄り、結論を導出できるようにしましょう。

【ポイント5】 他の事象に当てはめて考える。  
導出した結論を別の事象に当てはめて考える意識をもちさせましょう。「ジャガイモの裏に日光を当てるとデンプンができる」という結論を導き出したら、「だったら、クローバーも、日光を当てると、デンプンができるの？」と考えるということです。（適用）

天栄村では、各小中学校が、文部科学省が提唱している理科の授業内容のポイントを端的に5つにまとめ、共通理解を図りながら授業を行っています。

# 山都町保・小・中連携推進プラン

山都町地域連携推進委員会では、知（学習内容と時間、自己表現力）、徳（あいさつ、清掃、奉仕）、体（生活習慣、体力向上）の三観点より、保育所から中学校まで発達段階ごとに具体目標を設定し、地域の共通理解を図り、指導・支援するために「保・小・中連携推進プラン」を策定しています。このプランは学区内全家庭に配布すると同時に、年度当初に回覧版で地域内全家庭にも周知します。また、つなぐ教育の評価もこの項目に照らして行います。

	1日できごとを話す。	家庭学習チェックカードを毎日つける。成績に記入する。 宿題＋自主学習に記入する。	毎日ワンダーノートに記入する。
家庭学習時間	20分以上	40分以上	60分以上 ★18時以上 ★21時以上 ★21時以上
自己満足力	1日できごとを話す。	朝の話をしっかりと聞き、自分の考えを話せることができる。	自分の考えを積極的に発表する。
あいさつ	元気なあいさつをする。	明るく元気な自分からあいさつする。 時と場合を考えて明るくあいさつする。	
清潔	使ったものをきちんと片付ける。	自分たちの使う場所を中心に決めて清掃する。	集中して清掃することができる。
奉仕	家のお手伝いをする。	係や委員会の仕事をしっかりとやる。	喜んでボランティア活動に取り組む。
生活習慣		毎月第1水曜日のテレビ・ノーゲームに記入する。 食事のときはテレビを見ない。	
体力向上	子どもと一緒に体を動かす。	喜んで外遊びを めあてを持って喜んで体力向上をする。	喜んで部活動に取り組む

## ふくしまから はじめよう。学力向上のための「つなぐ教育」推進事業＜平成27年度推進校＞

- 【県北地区】（桑折町）醸芳中、醸芳小、睦合小、半田醸芳小、伊達崎小（二本松市）岩代中、新殿小、旭小（本宮市）本宮一中、本宮小、本宮まゆみ小
  - 【県中地区】（須賀川市）長沼中、長沼小、長沼東小（浅川町）浅川中、浅川小、里白石小、山白石小
  - 【県南地区】（矢吹町）矢吹中、中畑小、三神小、矢吹小、善郷小（中島村）中島中、滑津小、吉子川小
  - 【会津地区】（会津坂下町）坂下中、坂下南小、坂下東小（西会津町）西会津中、西会津小
  - 【南会津地区】（下郷町）下郷中、旭田小、江川小、檜原小
  - 【相双地区】（相馬市）磯部中、磯部小（広野中）広野中、広野小
  - 【いわき地区】（いわき市）小名浜一中、小名浜一小、小名浜二小、小名浜西小、鹿島小、江名中、江名小、永崎小（以上47校）
- \* 中学校が各推進地域の拠点校となっています。